



Creative Application A02

はじめに思考ありき

2023年度

渡邊 賢悟 (渡辺電気株式会社)

受講のてびき

- ・ 本資料は作成者の解釈が含まれます
解釈違いや、答えのない議論があります
- ・ 前半：1テーマの座学
- ・ 後半：テーマを深める質問と考察
- ・ 気になる点をメモして受講してください

資料の見方

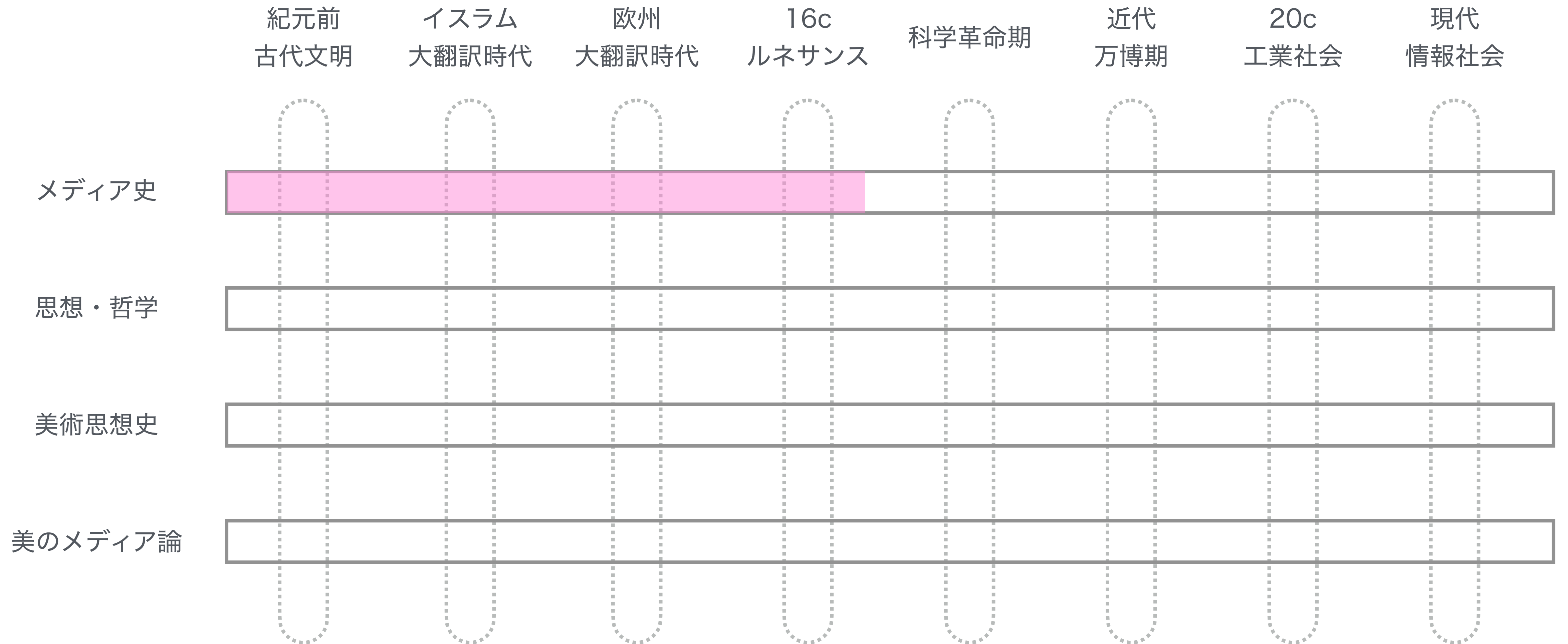
テーマに沿った項目
(座学で説明します)

左の内容に関連した
補足キーワード
(調べ物に役立ててください)

本日のテーマ

- ▶ **思考** は人類史からの贈り物

演習の領域



思考前史1 - 個人の思考の尊重

- ▶ 現代の**思考** = **個人の思考**
- ▶ 古くは**個人の思考**はあまり認識されなかった
- ▶ 個人の思考以外で優先される事柄
 - ▶ 王や有力者の思考
 - ▶ 法律・倫理・論証
 - ▶ 精霊・神・教義・道 など
- ▶ 個人の思考はどのように育まれたのか？

関連キーワード

- アニミズム, シャーマニズム
- メソポタミア文明
- 王政の誕生
- ハンムラビ法典
- 古代バビロニア
- 古代エジプト
- オリエント文明, ヒッタイト帝国
- 古代ギリシャ
- アケメネス朝ペルシア, ゾロアスター教
- 二元論
- 多神教, 一神教
- 仏陀, 大乘仏教, 上座部仏教
- ユダヤ教, キリスト教, イスラム教
- タルムード, 聖書, コーラン
- 儒教, 孔子, 老子, 孟子
- ローマ帝国の成立

思考前史2 - 中東・欧州を例に

- ▶ 1. 古代ギリシャ 学問の成立
▽
- ▶ 2. 知恵の館 世界文化の合流
▽
- ▶ 3. 欧州翻訳時代 ルネサンスの揺籃
▽
- ▶ 4. 宗教改革 **個人**と**思考**の萌芽

関連キーワード

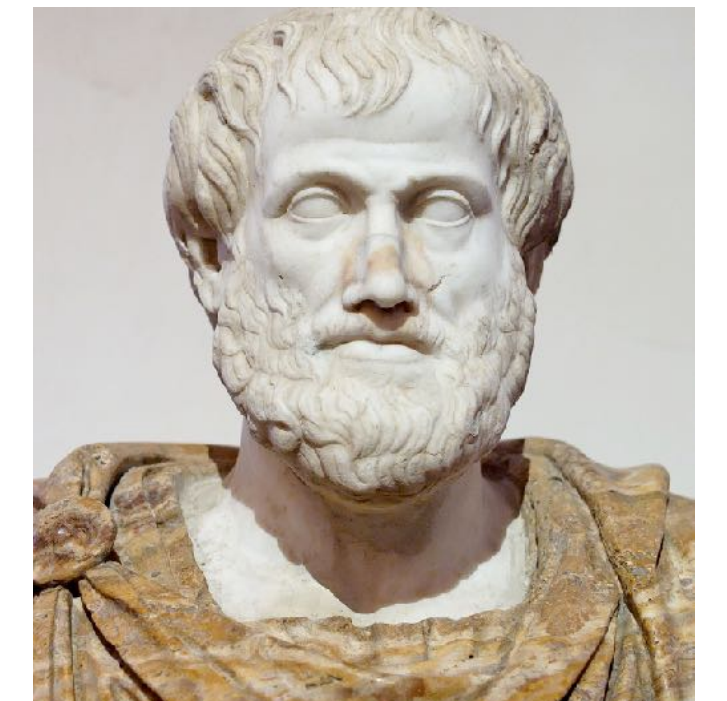
- マケドニア帝国と継承戦争
- ローマ帝国分裂
- 西ローマ帝国, ビザンティン帝国
- エフィソス公会議, ネストリウス派排斥
- ササン朝ペルシア, ホスロー1世
- アッバース朝イスラム帝国
- カロリング朝ルネサンス
- 12世紀ルネサンス
- 神学論争
- 北方ルネサンス

思考の分節点1 - 古代ギリシヤ

- ▶ 学問・哲学の誕生
 - ▶ 余裕のある**有力者の思考**が発展
 - ▶ 生命維持の議論から世界認識の議論へ
- ▶ プラトニズム, アリストテレス哲学

関連キーワード

- プラトン, アリストテレス, デモクリトス
- アカデミア・プラトニカ
- イデア論, フィロソフィア, 原子論



思考の分節点2 - 知恵の館

- ▶ アッバース朝の異文化交流
 - ▶ 他文化の書物をアラビア語に翻訳
 - ▶ イスラムを深める**学者の思考**が発展
- ▶ 科学的功績・歴史的書籍を生む

関連キーワード

- タラス河畔の戦い(製紙技術の獲得)
- アッバース朝, エジプト, バビロニア, アラビア, ペルシア, ギリシャ, インド
- イスラム科学, 解釈学, アリストテレス哲学
- イブン・シーナー, アル・フワーリズミー
- 「医学典範」 「代数学」

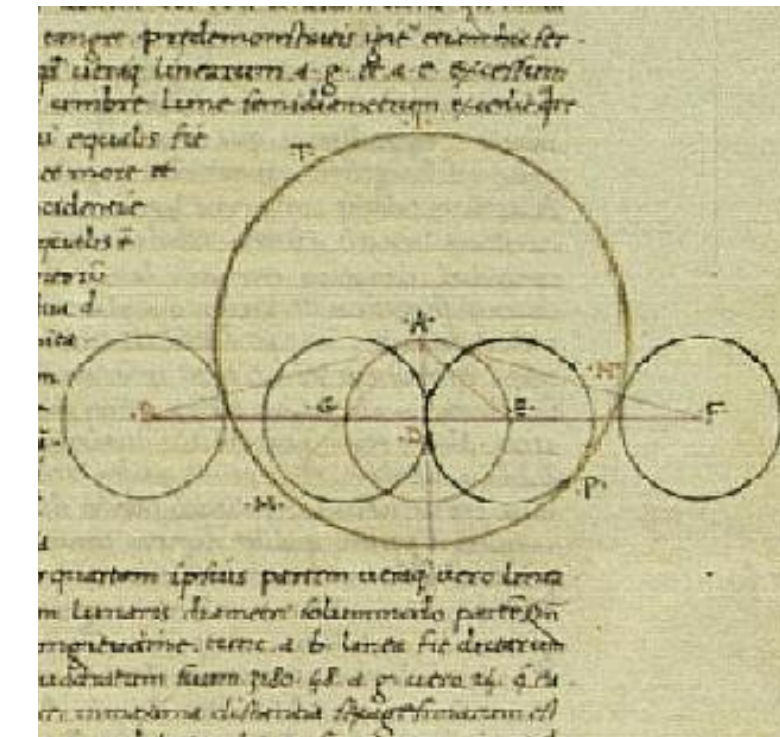


思考の分節点3 - 欧州翻訳時代

- ▶ 欧州ルネサンスの胎動
 - ▶ イスラムの書物をラテン語翻訳
 - ▶ 翻訳者・神学者の**思考**が発展
- ▶ ギリシャ文化とキリスト神学の融合

関連キーワード

- トレド, パレルモ
- 第一次十字軍, 十字軍国家
- トマス・アキナス, 尊者ピエール
- 「神学大全」 「アルマゲスト」
- スコラ哲学



思考の分節点4 - 宗教改革

- ▶ ルネサンス後のキリスト教再構築運動
 - ▶ 読みやすくした聖書を印刷して配布
 - ▶ 民衆が直接読み, **個人の思考**が動き始めた
- ▶ 一人一人が解釈を持つ → **個人の思考の芽生え**

関連キーワード

- イタリアルネサンス
- コシモ・デ・メディチ
- グーテンベルクの活版印刷技術
- ルネサンス人文主義
- 北方ルネサンス
- マルティン・ルター
- ドイツ農民戦争



思考の変化と社会の変化

- ▶ 例：西洋絵画の変遷
 - ▶ 中世の宗教画　：キリスト神学
 - ▶ ルネサンス絵画　：ギリシャ神話
 - ▶ 以降の絵画　　：風景, 静物, 人物, …
 - ▶ **個人の思考が表現に反映されていく**
- ▶ **個人の思考**の発展 → 社会と個人の関係性が深化

思考は人類史からの贈り物

- ▶ はじめに**(個人の)思考**ありき
 - ▶ 時を経て権力者から個人へ
 - ▶ 現代は、個人が考え発信できる時代
 - ▶ 私(個人)自身を社会に出力する
- ▽
- ▶ **自分で思考できることがあらゆる出発点**

本日の議論・考察一助

- a. 個人の思考と他者の思考がある. どのように並立すべきだろうか
- b. AI専門家が人の理解を深めようという意見がある. なぜか
- c. 個人の思考が社会に影響を与える例はどのようなものがあるか
- d. その他, 今回の内容で深めたいところがあれば

次回予定

- ▶ **思考とメディア あるいは 主客と世界**

参考文献

1. ウンベルト・エーコ著, 河島 英昭訳, 「薔薇の名前」, 東京創元社, 1990
2. 井筒 俊彦, 「イスラーム文化 - その根底にあるもの」, 岩波書店, 1991
3. 井上 浩一, 「生き残った帝国 ビザンティン」, 講談社文庫, 2008
4. 伊東 俊太郎, 「十二世紀ルネサンス」, 講談社学術文庫, 2006
5. 高階 秀爾, 「ルネッサンスの光と闇」, 中公文庫, 1987
6. 徳善 義和, 「マルティン・ルター - ことばに生きた改革者」, 岩波新書, 2012
7. 岡本 裕一郎, 「いま世界の哲学者が考えていること」, ダイヤモンド社, 2016
8. 西垣 通, 「AI原論 神の支配と人間の自由」, 講談社選書メチエ, 2018
9. マルクス・ガブリエル著, 清水 一浩訳, 「なぜ世界は存在しないのか」, 講談社選書メチエ, 2018